

麒麟がくる

© NHK・TYO

伝説の麒麟は平穏な世にやってくるという。
戦の絶えない混迷の時代、その若者は多くの人と出会い、
戦国の世に翻弄されながら必死に生きた。
明智光秀。
まだ何者でもない一人の青年の物語がはじまる。



TEL 045-11625
問 商工観光課観光係

市ではそれらの動きと連動して、市内の関係団体で構成する「大河ドラマ「麒麟がくる」宮津市推進協議会」を平成31年1月に設立し、細川ガラシャゆかりの地のPRに努めています。

それらの活動が身を結び、明智光秀を主役とする2020年大河ドラマ「麒麟がくる」が放送決定。それを契機とし、関係自治体では「大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会」を設立し、新たな取り組みを進めています。



大河ドラマ
関連 HP



大河ドラマ 誘致活動

本市及び関係市町では「波乱に満ちた戦国時代を生きた父と娘の絆と生き様を通して、現代に通じる父と娘、家族の絆」をテーマとし、明智光秀、細川ガラシャ、細川幽斎、細川忠興ゆかりの地域の歴史文化を全国に発信し、観光振興と地域経済の活性化に寄与することを目的に、平成23年に「NHK大河ドラマ誘致推進協議会」を設立し、署名活動や機運の醸成、NHKへの要望活動などを実施してきました。

明智光秀・細川ガラシャと丹後・宮津

明智光秀の三女として永禄6年(1563)に生を受けた玉子(細川ガラシャ)は、16歳で父の盟友である細川藤孝(幽斎)の長子・忠興に入嫁。天正8年(1580)、細川親子の丹後入国に伴い宮津で暮らしました。天正9年には、細川藤孝・忠興が、父・明智光秀や津田宗及、山上宗二、里村紹巴を招いて天橋立で茶会を開き、玉子(ガラシャ)は幸せな時を過ごしました。

しかし、翌年、明智光秀が本能寺の変を起こすと、細川忠興は逆臣の娘となった玉子(ガラシャ)と離縁し、山深い味土野(京丹後市弥栄町)に幽閉。玉子(ガラシャ)の運命は大きく動き出しました。

細川ガラシャのその後

復縁した玉子(ガラシャ)は、大坂玉造にある細川屋敷へ移り住みます。そこで、カトリックの洗礼を受け「ドンナ・ガラシャ」(「恩寵」・「神の恵み」の意)の名を授かりました。

慶長5年(1600)関ヶ原の戦いに先立って、ガラシャは敵将・石田三成の人質となることを拒み、自ら玉造の屋敷に火を放ちその生涯を終えます。戦国武将の妻として、明智光秀の娘であるが故に辿った数奇な運命、カトリック教義への傾倒と信仰を守り抜いたその生涯は、当時布教のために日本を訪れていた宣教師達によって、遠くヨーロッパの地で広く紹介されました。1698年、ウィーンの劇場でガラシャを主人公としたオペラが上映されるなど、彼女は当時のヨーロッパにおいて最も知られた日本人の一人であり、今も多くの人にその感動を伝えています。



盛林寺 (字喜多)

天正5年(1577)、宮津大久保谷で創建され、江戸時代に現在地に移りました。背後の墓地には「明智光秀の首塚」があり、娘である玉子(ガラシャ)によって供養されたものと伝えられます。一色氏に関する過去帳や位牌、夭折した細川幽斎の子・菊童を描いた「即安悔心童子像」などが所蔵されています。



カトリック宮津教会

明治29年(1896)、ルイ＝ルラブにより建築されたカトリック天主堂。外観はステンドグラスが輝くフランス風。堂内は畳敷きと珍しい和洋折衷建築となっており、現在もミサが行われている教会としては日本最古のカトリック教会です。ルラブ達は、玉子(ガラシャ)の存在を意識していたとも考えられています。
※修繕工事中のため、外観のみ見学可能



宮津城跡 (大手川城壁)

天正8年(1580)、織田信長によって築城が認められ、細川藤孝(幽斎)・忠興が海に面した宮津城や城下町を整備しました。現在、石垣などは見られませんが、発掘調査によって細川時代の宮津城が見られています。現在、約260mにわたり城壁が再現され、城下町・宮津の風情が甦っています。

明智光秀・ガラシャゆかりの地

宮津のまちは、細川藤孝(幽斎)・忠興による宮津城、城下町の整備をきっかけに発展し、明智光秀や玉子(ガラシャ)の運命を左右するドラマの舞台となりました。

特に、本能寺の変では、明智光秀と親戚関係にある細川は、行動をとることを期待されましたが、細川がこれを拒否したことで光秀は「三日天下」に終わりました。また、この時玉子(ガラシャ)が味わった幽閉の日々は、キリスト教の信仰へと繋がり、その後の人生は海を渡ったヨーロッパでも語り継がれています。

さらに、関ヶ原の戦いに際しても、細川ガラシャの人質拒否や、細川幽斎による田辺城籠城(舞鶴市)が東軍(徳川家康)の勝利に影響を与えたとされており、細川の行動は、戦国時代の歴史を大きく動かしました。

宮津市内には、細川や明智光秀、玉子(ガラシャ)とゆかりがある場所が数多く残されています。是非この機会に、足をお運びください。

問 社会教育課社会教育係
45・1642

八幡山城跡 (字宮村)

丹後国最大級の山城で、細川氏が丹後の拠点とした城跡。山頂に石垣が見られます。石垣は織田家臣団の城だけにみられる最先端の技術で、細川氏の丹後進出と、織田信長、明智光秀の関連を雄弁に物語ります。また、石垣北側の曲郭からは、天橋立を一望することができます。



天橋立

日本三景の一つ。天正9年(1581)、細川藤孝(幽斎)・忠興父子が、明智光秀や茶人の津田宗及、山上宗二、連歌師の里村招巴を招待して、「細川三斎(忠興)の初茶会」を開催しました。翌年、本能寺の変が起こったことから、この茶会は玉子(ガラシャ)と父・光秀の最後の別れとなりました。



一色稲荷神社

旧宮津城内に祀られ、細川忠興により斬殺された最後の丹後国主・一色五郎を鎮魂する神社。一色氏は、室町幕府の「四職」の家柄で、明徳3年(1392)以来、9代にわたり丹後を支配しました。一色五郎は、一色氏最後の戦国大名で、細川支配後も、大きな力を維持していました。





大河ドラマ関連新商品・メニュー開発

地域の魅力を 商品・サービスに乘せて

大河ドラマ「麒麟がくる」宮津市推進協議会では、地域の魅力を全国に発信するため、本年4月から大河ドラマに関連する新商品・メニューの開発に取り組む事業者等を募集し、物販商品として8事業者と海洋高校が22商品を、飲食メニューとして3事業者が3メニューを開発されました。

開発された商品等は、地元産の材料や食材を使用しており、宮津を感じられる一品となっています。

発表会を開催

10月20日、丹後きものまつりin天橋立の会場で、開発された新商品等の発表会が開催され、あわせてロゴマークが発表されました。当日は、新商品の販売に加え、野点会場での振る舞いが行われ、大いに賑わいました。

出店された事業者からは「初めての体験だったがいち勉強になった」「お客様の反応を知ることができてよかった」などの声があり、事業者にとって新たなチャレンジの第一歩となりました。

今後の取り組み

本協議会では、さらなる新商品等の開発や、開発された商品の販売拠点の整備に向け調整が行なわれています。また、開発された商品等を通して、地域のPRに取り組まれます。

皆さんも是非、大河ドラマ「麒麟がくる」と合わせて本取り組みをお楽しみいただき、市域全体で盛り上げていただきますようお願いいたします。

お問い合わせ先等

問 大河ドラマ「麒麟がくる」
宮津市推進協議会商品開発部会
(事務局・宮津商工会議所)
TEL 22-5131

その他

新商品・メニューの詳細は、次のQRコードからご覧ください。



関連 HP



22 商品・3 サービス





地域の機運向上・PR

宮津ガラシャまつり

12月1日(日)、大手川ふれあい広場で大河ドラマ「麒麟がくる」放送1か月前PRイベントとして「宮津ガラシャまつり」が開催されました。

丹後宮津桔梗の会による細川ガラシャの半生を描いた紙芝居「細川ガラシャ物語」の披露や細川氏の築いた宮津城跡を辿るプラミヤヅ#8などのイベントで盛り上がりしました。

また、地元団体による催し(合唱、

ダンス、歌披露)や模擬店等が出店されました。

同日から来年1月13日(月・祝)まで、冬のまちなみキャンドル～inori～として宮津城壁をイメージした大手川城壁・しらかべの道や大手川ふれあい広場がライトアップされています。



企画展示・歴史講座

10月28日(月)から来年1月24日(金)まで野村證券京都支店(京都市下京区)ショーウィンドウにおいて、宮津市の「企画展」を開催しております。

また、12月11日(水)同会場で、大河ドラマ「麒麟がくる」宮津市推進協議会による歴史講座「光秀・ガラシャと宮津天橋立」が開催され、100人を超える方が参加されました。

第二回の歴史講座は、来年1月17日(金)14時から16時まで「明智光秀の宮津来遊～天橋立九世戸茶会」と題し、同会場で開催されます。

参加には事前申し込みが必要です。参加をご希望される方は、下記からお申し込みください。

問 総合ダイヤル TEL 0570-077-000

問 野村證券京都支店 TEL 075-221-7211

ファムトリップツアー

11月27日(水)、28日(木)、メディア向けのファムトリップツアーが開催されました。このツアーは大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会に参画している11市町の各所に点在している「ゆかりの地」を巡るもので、東京や大阪から記者10数名を招き、各市町のガイドや学芸員等が「ゆかりの地」の説明を行いました。

28日(木)の「細川ガラシャ夫人像」「盛林寺」「天橋立」の視察では、市教育委員会河森学芸員によるガイドの中、

記者からは「知らなかったことが多かった。新たな魅力を発見でき、それらを記事で発信していきたい」などの感想が聞かれました。また、昼食は茶六別館で細川家にちなんだ「桔梗御膳」を試食していただきました。

※ファムトリップツアー

観光地の誘客促進のため、ターゲットとする旅行事業者やブロッガー、メディア等に現地を視察してもらうツアー

